

K-616

山形県長井市埋蔵文化財調査報告書第4集

分布調査報告書

1988年

長井市教育委員会

分布調査報告書

昭和63年3月

長井市教育委員会

序

朝日山系のふもと通称西山には、昭和57年の遺跡詳細分布調査で大規模な遺跡の概要が明らかになりました。また、伝え聞くところによると、伊佐沢地区にも古くからの言い伝えや土器・石器の発見が聞かれ、遺跡の宝庫といわれる西根地区に匹敵するほどの遺跡の所在が予想されます。

しかし、近年になり道路造成や宅地開発、土砂採取など開発事業が計画され、遺跡が存在する区域にまでおよぼうとしています。古くから伝わる文化遺産を少しでも後世に伝えることを目的として実施したのが、このたびの「伊佐沢地区遺跡詳細分布調査」であります。調査区域が広範囲におよぶため、今年度は同地区の中央を流れる逆川の東側を調査の対象とし、西半分を次年度に調査する計画であります。

調査によると本地区では縄文時代と戦国時代の遺跡が大半を占めています。特に戦国期の範囲の多さには目を見張るものがあり、平地の館跡や小高い山の頂に築かれた山館は限られた範囲に密集していることから、戦国時代の伊佐沢地区が重要な役割を担っていと思われます。また、採集した土器や石器は縄文時代の遺跡の豊富さを示しており、伊佐沢地区も縄文の昔から先人に生活の場を提供してくれた地域と言えそうです。

とかく現代は豊かな生活を求めることが優先され、先人が暮らしてきた痕跡が無造作に消し去られようとしています。温古知新のことばで著されるように、過去の出来事から学びとることも将来を築くには必要なことがあります。開発と遺跡保護は背中合わせのものですが公共事業・民間開発を問わず文化財保護の必要性をご理解いただき、互いに調整をとりながら進めていく所存であります。

最後になりましたが、この度の調査にご協力いただきました関係各位ならびに悪天候にもかかわらず調査に参加下さいました地元の方々に感謝申し上げるとともに、本書が遺跡保護に対する理解の一助になれば幸いに存じます。

昭和63年3月

長井市教育委員会

教育長 鈴木泰助

例　　言

- 本書は、長井市教育委員会が国庫補助を得て、昭和62年度に実施した伊佐沢地区を中心に行った開発事業等にかかる遺跡詳細分布調査の報告書である。
- 調査期間は昭和62年10月1日から昭和63年3月31日までである。
- 調査体制は次のとおりである。

調査主任 佐藤正四郎（長井市埋蔵文化財専門委員・県立米沢女子短期大学講師）

調査員 村上和雄（長井市企画課文化係長）

　　・ 岩崎義信（　　・ 主事）

調査補助員 新野厚（　　・ 嘱託）

調査参加者 会田芳雄　飯沢太一　飯沢兵吉　伊藤豊　大沼等　小間力男　志釜久弥　志釜肇　志釜幹雄　渋谷功　鈴木市郎　鈴木久一郎　鈴木重信　鈴木正三　鈴木次郎　鈴木武次　鈴木敏男　高橋辰巳　高橋敏永　竹田惣兵衛　手塚勇　那須末吉　布施仁吉　布施孫次　布施安夫　山口久吾　横沢敏雄

事務局長 竹田欣助（長井市企画課 文化主幹）

事務局係長 村上和雄（　　・ 係長）

事務局長 岩崎義信（　　・ 主事）

　　・ 新野厚（　　・ 嘱託）

- 本調査にあたっては、次の方々にご指導・ご協力をいただいた。ここに記入して感謝申し上げます。

山形県教育庁文化課、伊佐沢地区公民館、伊佐沢郷土史会、長井市農林課

- 挿図・付図の縮尺についてはスケールで示した。

- 遺跡番号は伊佐沢地区の頭文字を付してI-1・2・3番とした。

本書の編集・執筆は佐藤正四郎・村上和雄・岩崎義信が担当した。挿図・図版等の作成は新野厚の補助を得た。

目 次

I 調査区の概要	1
II 調査の経緯	3
1. 調査に至るまで	3
2. 調査の方法	3
3. 調査の経過	4
III 調査の概要	5
IV 遺跡の位置と現況	15
V 城館遺跡について	27
VI 遺物について	31
VII ま と め	38

挿図目次

第1図 分布調査位置図	2
第2図 遺跡位置図	15
第3図 遺跡位置図	17
第4図 遺跡位置図	19
第5図 遺跡位置図	21
第6図 遺跡位置図	23
第7図 遺跡位置図	25
第8図 岩館繩張図	29
第9図 桑島館繩張図	30

図版目次

図版1 遺跡現況	16
図版2 遺跡現況	18
図版3 遺跡現況	20
図版4 遺跡現況	22
図版5 遺跡現況	24
図版6 遺跡現況	26
図版7 分布調査遺物	33
図版8 分布調査遺物	34
図版9 分布調査遺物	35
図版10 分布調査遺物	36
図版11 分布調査遺物	37

I 調査区の概要

伊佐沢地区は長井市の南東部に位置し、山形県の中央部を南北に走る出羽丘陵の南端部にある。南に開けた平坦地は南北にのび、三方を丘陵に囲まれ馬蹄形を呈する小盆地となる。大石沼に源を発する逆川は平地の中央部を南に向かって流れ、下伊佐沢地区で最上川と合流する。逆川に直行する小河川が著しく発達しているため、いたるところに河岸段丘がみられる。また、日の出町・金井神両地区は中央地区的東側にあたるが、出羽丘陵沿いの最上川右岸低位段丘上に位置し伊佐沢地区と接している。

伊佐沢地区には数多くの文化遺産が残っており、あるものは現在にまでその姿を伝え、またあるものは伝承として今日に至っている。代表的なものにはまず国指定の天然記念物「伊佐沢の久保ザクラ」があげられよう。伊達の家臣桑島将監とのかかわりがあると伝えられることから樹齢約450年と推定される。現在も目通り約9メートルを計り、毎年美しい花をついている。つぎに山形県無形民俗文化財に指定されている「伊佐沢念仏踊」がある。伝承では室町時代の永禄年間に、上伊佐沢に玉林寺が創建されたとき、その落慶供養に奉納したのが始まりと言われ、400年の伝承をもっている。ほかにも周囲が約34メートルの「洞雲寺の大石」、「芦沢の千年マツ」、「上伊佐沢館のホーキマツ」、「上伊佐沢のブナ」、「岩切不動の門スギ」、「芦沢観音のスギ」などの天然記念物がある。また、特徴的なこととして城館遺跡が多く残っている。ひろく知られているものとして「伊佐沢の五館」があり、いずれも中世の言い伝えが残っている。中世の遺構が現在まで残っている館跡に「小間家屋敷」がある。屋敷の周囲に幅三間の館濠が巡らされており、堀には現在も水が張ってあり当時の雰囲気がただよってくる。

埋蔵文化財についてはこれまで6遺跡が確認されており、時期は縄文時代4遺跡、古墳時代2遺跡が登録されている。いずれも昭和53年度版山形県遺跡地図作成の際発見されたものである。しかし、当地域は地形的にも遺跡の立地条件に適した箇所が多く見られるところから、多数の遺跡が眠っているものと考えられる。地元でも土器や石器を蒐集されている方々がいるのも、遺跡数の多いことを裏付けるものである。

また、当地区では昭和31年に「伊佐沢の郷土誌」が刊行され古文書・史跡・天然記念物・神社仏閣をはじめ郷土の歴史が克明に記されており、地区の方々の文化財に対する関心の高さを肌で感じるところもある。



第1図 分布調査遺跡地図

II 調査の経緯

1 調査に至るまで

伊佐沢地区は近年時代の要求によって、農地や宅地の造成が盛んに行われ、それに伴う取り付け道路の工事も数多くすすめられてきている。

農道関係では、芦沢地区において昭和62年から昭和66年にかけて團体営農道が計画されている。また、下伊佐沢地区においても、昭和62年から66年にかけて農免農道が計画され、将来的には南陽市側からの農道とつながる計画である。これから農道は全長が1キロメートル未満のものであるが、計画路線は遺跡が多く立地する河岸段丘や小丘陵を横断するルートになっている。

農用地開発については、すでに中伊佐沢地区でホップ圃地が、下伊佐沢地区ではたばこ圃地がそれぞれ造成されている。これから開発が計画されている箇所は、下伊佐沢で12ヘクタールにおよぶ農用地開発と、上伊佐沢地区大野平で70アールがそれぞれ昭和64年度以降計画されている。

土取りについては、当地域は周囲を山に囲まれているものの、出羽丘陵の南端部に位置するためけわしい山は少ない。それに加えて周辺一帯の山土は客土用の条件をそなえていることから、関連業者による土取りの現状が著しく、事前調査を行った時点で9箇所の採掘箇所が確認された。

これらに対処するために、市教育委員会は市農林課をはじめ関係機関との協議を経て、伊佐沢地区と中央地区の一部を対象に、遺跡詳細分布調査を行い遺跡の保存と活用に役立てるため国庫補助を得て、昭和62年10月1日から調査を実施した。

2 調査の方法

(1) 聞き取り調査

現地調査を実施するにあたり、郷土史会や地区公民館を通じて昔からの言い伝えや耕作土木工事等における遺物の有無について聞き取りを行った。また、土器や石器の収集者からは出土地点や収集年月日の情報提供を受けた。

(2) 現地調査

聞き取り調査で入手した情報や、行く先々での遺物の散布・出土についての情報を収集にあたりながら、新規遺跡の発見につとめた。特に地形等で立地条件に恵まれた箇所では入念な調査を実施した。また、周知の遺跡については現地の現況や範囲の確認に重点をおいた。

(3) 繩張図作成

当地区には古くから中世城館跡に関する資料や言い伝えが多く残っている。平地の館はもとより山頂部に位置する山城に至るまでくまなく伝わっている。これらのなかで作成可能なものについては繩張図の作成にあたった。

3 調査の経過

今年度の調査は伊佐沢地区中央部を流れる逆川を境にして東側を中心に現地踏査を実施した。長井市教育委員会が主体となり、市産業課、伊佐沢地区公民館、伊佐沢郷土史会の協力を得て調査を実施した。

経過については調査の方法でも述べたが、聞き取り調査、現地調査、繩張図作成と大きく3種類に分けて実施し、表1行程表のとおりである。また、現地調査は次のとおりである。

- 10月26日 大石地区 大石沼周辺を中心に踏査する。松葉沢山、沼之平、一之又、小影、荒屋敷、新道堀りより遺物を採集する。
- 10月27日 平ノ沢地区・山の神地区を踏査する。李沢で通称「うまかくし」とよばれるテラス状の遺構（城館遺跡の一部）を確認する。
- 10月28日 芦沢地区 長面、神明林、西の原、座須脇、荷渡原、桜沢で遺物を採集し、御林で館跡を確認する。
- 10月29日 芦沢地区・中伊佐沢地区 網代沢で塙、裏山で館跡を、また向山・藏高・小伊佐沢安城沢で遺物を採集する。
- 10月30日 下伊佐沢地区 水上、稻荷前、菅沢、天神平で遺物を採集する。
- 11月2日 中伊佐沢地区・上伊佐沢地区 金地ヶ原、穂長入、五郎兵衛屋敷、中ノ嶋、館、久保で遺物を採集する。
- 11月21~30日 岩館・桑島館の繩張図作成にあたる。

表-1 分布調査行程表

内容	昭和62年			昭和63年		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
聞き取り調査	1 25					
現地調査		36 2 10~17				
繩張図作成			21 30			
資料整理 報告書作成			1			30

III 調査の概要

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	時期	地目	立地
1	散布地	松葉沢山	長井市上伊佐沢字松葉沢山・ 字弥五郎屋敷跡	縄文時代	雜木林	山頂
2	散布地 館跡	沼之平	長井市上伊佐沢字沼之平	縄文時代 中世	雜木林	丘陵
3	散布地	一之又	長井市上伊佐沢字一之又	縄文時代	杉林	丘陵
4	散布地	小影	長井市上伊佐沢字小影	縄文時代	畑地	段丘
5	散布地	荒屋敷	長井市上伊佐沢字荒屋敷	縄文時代	畑地	段丘
6	館跡	廻館	長井市上伊佐沢字廻館	中世	雜木林	山頂
7	散布地	新道堀り	長井市上伊佐沢字新道堀り	縄文時代	蔬菜畑	段丘
8	館跡	岩館	長井市上伊佐沢字岩館	中世	雜木林	山頂
9	館跡	うまかくし	長井市上伊佐沢字李沢	中世	雜木林	山腹
10	包藏地	久保	長井市上伊佐沢字久保・神明 古八幡	縄文時代 中世 近世	畑地 宅地 道路	段丘

遺 跡 概 要	遺 物	備 考
松葉沢山の山頂には、大石沼からの遊歩道が延びており、遺物は山頂・山腹付近の遊歩道路肩に散布している。	剝片・碎片	新 規
大石沼に延びる遊歩道造成工事で削平された切り通しや路肩に遺物が散布している。また、幅2m長さ50mにわたり空濠もみられる。	接器・剝片・碎片	新 規
小峰から南東へ約250m南陽市との境に位置する。植林されてまもない杉林の斜面より遺物を収集する。	石皿	新 規
逆川の支流によって形成された段丘上に位置し南側は基盤整備で破壊しているが、北側の堆は遺物が多く散布し遺存状態も良い。	石鏃・搔器・剝片・碎片	新 規
No.4の南側の段丘上に位置したたばこ畑に遺物が散布する。周囲の植林された杉林にも遺跡の範囲は広がるものと見られる。	石鏃・剝片	新 規
上大石地区の入口、逆川の右岸に張り出した山の頂きには、平場と空濠・溝が何重にも巡らされている。祭祀の可能性もある。		新 規
洞雲寺の山門に向かって参道右側の高台先端に遺物が散布する。	縄文土器片・剝片	新 規
山頂付近の尾根に沿って段々畑のように広場が築かれている。段差は0.5~4mとさまざまあり祭祀跡の可能性もある。		新 規
見明山から南に張り出した尾根の東斜面に20m×5mの平場が築かれ、斜面谷側には1~2mの土塁が巡っている。		新 規
逆川とその支流によって形成された段丘上に位置する。採集された遺物は表土が厚く堆積しているため少量である。	縄文土器・石棒・剝片・陶器片	新 規

調査の概要

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	時期	地目	立地
11	館跡	桑島館	長井市上伊佐沢字館内	中世	烟宅地	段丘
12	散布地	中ノ嶋	長井市上伊佐沢字中ノ嶋	縄文時代	烟地	段丘
13	散布地	五郎兵衛屋敷	長井市上伊佐沢字五郎兵衛屋敷	縄文時代	烟地	段丘
14	散布地	館	長井市上伊佐沢字館	縄文時代	宅烟地道	段丘
15	散布地	金地ヶ原	長井市上伊佐沢字金地ヶ原	縄文時代	烟地	段丘
16	窯跡	穂長入	長井市上伊佐沢字穂長入	奈良・平安	雜木林烟地路	段丘
17	館跡	御林	長井市上伊佐沢字御林	中世	雜木林	山頂
18	散布地	藏高	長井市上伊佐沢字藏高・谷地	縄文時代	烟宅地道	段丘
19	散布地	神明林	長井市上伊佐沢字神明林	縄文時代	果樹烟宅地	段丘
20	包蔵地	桜沢	長井市上伊佐沢字桜沢	縄文時代	宅地	段丘

遺 跡 概 要	遺 物	備 考
字名にも残っているように古くから濠や土塁の有る所として知られている。言い伝えによると伊達家下臣「桑島将監」の館跡という。		新 規
伊佐沢小学校の東側約700m、南北に沢が走り東西に延びる台地上に遺物が散布する。	剝片・碎片	新 規
No.12の南東部、沢をひとつ隔てた台地に遺物が散布する。聞き取り調査によると耕作中に完形の石皿や縄文土器片が出土した。	縄文土器片・石皿	新 規
玉林寺の西北一帯の高台では、耕作や道路造成の際縄文土器が出土したという。本調では厚い表土層のため採集遺物は少ない。	剝片	新 規
伊佐沢神社の東南一帯の高台から、少量ではあるが広い範囲から遺物が採集される。	剝片	新 規
伊佐沢神社の東方約550m、西に向けて張り出した台地の先端に位置する。道路造成の際焼土も見られたので窯跡と考えられる。	須恵器片	新 規
芦沢鍾音の北西約800mの山頂に位置する。東南斜面には四重の空濠が巡り山頂から延びる尾根は数条の溝でたちきられている。		新 規
桐町橋の東側台地一帯から遺物を採集する。表土が厚く堆積しているため遺物の採集量は少ないが遺存状態は良好である。	剝片	新 規
No.18の南東部、沢をひとつ隔てた高台に遺物が散布する。他の遺跡から比べると採集される遺物が多い。	剝片・削片	新 規
芦沢鍾音の東側約150mに位置する。家の増築工事の際地下約1.5m掘り下げたところ、遺物が多数出土している。	縄文土器片・石皿・石甕	新 規

調査の概要

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	時期	地目	立地
21	包蔵地	座須脇	長井市上伊佐沢字座須脇	縄文時代	畑地	段丘
22	散布地	西の原	長井市上伊佐沢字西の原	縄文時代	畑地	段丘
23	散布地	荷渡原A	長井市芦沢字荷渡原	縄文時代	畠地 苗畑	段丘
24	散布地	荷渡原B	長井市芦沢字荷渡原	縄文時代	蔬菜畑	段丘
25	散布地	向山	長井市芦沢字向山	奈良・平安	鉄塔	丘陵
26	散布地	長面	長井市芦沢字長面	縄文時代	蔬菜畑	段丘
27	祭祀跡	網代沢	長井市芦沢字網代沢	中世	雜木林	残丘
28	祭祀跡 館跡	裏山	長井市芦沢字裏山	中世	雜木林	山腹
29	散布地	安城沢	長井市芦沢字安城沢	奈良・平安	畑地	段丘
30	散布地	小伊佐沢	長井市中伊佐沢字小伊佐沢	縄文時代	畑地	段丘

遺 跡 概 要	遺 物	備 考
No.20の東側約450m離れた段丘上に遺物の散布が見られる。聞き取り調査では以前耕作の際、多量遺物が出土したという。	縄文土器片・石箒・磨石・剝片	新規
No.21の南側で一段低い段丘面に位置し、南斜面に遺物の散布が見られる。	石匙	新規
逆川とその支流によって形成された段丘上に位置する。東西300m南北100mの範囲に遺物が散布する。	磨石・石皿・剝片	新規
No.23の南側に位置した一段高い段丘に位置する。表土は苗代用に削平されており切通しにより石器を採集する。	スクレイバー	新規
向山荘の西側の小丘陵には東北電力の鉄塔が建設されており、その周辺より遺物が採集される。	須恵器片	新規
稲荷神社の北西約200mの段丘面には300m×70m、と広範囲にわたり遺物が多量に散布する。	縄文土器片・石匙・搔器・碎片	新規
No.26の南東部に位置する。残丘を利用しほぼ方台形を呈し、部分的に溝が残っている。		新規
稲荷神社に向かって北西に張り出した尾根の中腹に位置する。四方を空濠や溝で区画された壇はほぼ方形で社が祭られている。		新規
稲荷神社の南西約250mの段丘面に遺物の散布が見られる。	須恵器片	新規
向山荘の南約350mの段丘上に遺物の散布がみられるが、基盤整備で一部破壊されている。	剝片	新規

調査の概要

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	時期	地目	立地
31	散布地	菅沢	長井市下伊佐沢字菅沢	縄文時代	烟鉄地塔	段丘
32	散布地	水上	長井市下伊佐沢字水上	縄文時代	烟地	段丘
33	散布地	稲荷前	長井市下伊佐沢字稲荷前	縄文時代	烟地宅地	微高地
34	散布地	天神平	長井市下伊佐沢字天神原	中世	烟地	段丘

山形県遺跡地図登載遺跡一覧表(昭和53年度版)

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	時期	地目	立地
1354	集落跡	宮	長井市十日町	縄文時代 (中期)	住宅地	平地 (200m)
1355	集落跡	岩穴	長井市上伊佐沢字岩穴	縄文時代 (前期・中期)	烟地	河岸段丘 (260m)
1356	集落跡	壇の越	長井市上伊佐沢字善並	縄文時代 (中期)	水田	河岸段丘 (250m)
1357	集落跡	元八幡	長井市上伊佐沢3313	古墳時代	烟地	段丘 (227m)

遺跡概要	遺物	備考
逆川とその支流によって形成された段丘面に位置し、東北電力の鉄塔周辺に遺物が散布する。	剝片	新規
竜雲寺の北約300mの段丘上に位置し、道路脇の緩斜面より遺物を採集する。	剝片	新規
下伊佐沢稲荷神社の南西に位置し、人家周辺の畑地に遺物の散布が見られる。	剝片	新規
逆川右岸の河岸段丘上に位置する。遺跡はたゞこ畑造成の際破壊されたとみえ、道路や畑に遺物が散布する。	須恵器片	新規

遺跡概要	遺物	備考
昭和31年に長井市教育委員会が発掘調査実施。昭和48年本遺跡の北西部からも遺物が確認され範囲が広がった。	縄文土器(大木7a・7b・8a)石匙・石鎧・石皿・叩石	昭和53年度版遺跡 地図登載
河岸段丘上に位置し、東西50m・南北100mの範囲に遺物が散布する。遺存状態は良好である。	縄文土器片	タ
昭和35~36年ごろ、開田の際に一部破壊を受けている。	縄文土器片・搔器・石錐・石槍・磨製石斧・剝片	タ
段丘上の畑地に東西30m・南北50mにわたり遺物が若干散布する。	土師器	タ

調査の概要

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	時期	地目	立地
1358	集落跡	太田	長井市上伊佐沢1812	古墳時代	水田	河岸段丘 (220m)
1359	集落跡	上の台	長井市上伊佐沢 字上の台521の2	縄文時代	畠地	段丘 (230m)
1360	集落跡	蜂屋敷	長井市上伊佐沢字上の台	縄文時代	畠地	段丘 (222m)

遺 跡 概 要	遺 物	備 考
河岸段丘上に位置する。昭和42~43年ごろ、開田時に一部破壊されている。遺跡範囲は東西30m・南北40m。	土師器	昭和53年度版遺跡地図登載
段丘の畑地一帯に遺物が散布する。	縄文土器片・磨製石斧	◆
伊佐沢小学校の北側に在る。散布地の東と西は道路になっており、この道路にはさまれた畑地を中心に遺物の散布がみられる。遺跡範囲は東西200m・南北300m。	石錐	◆

遺跡の位置と現況





No. 1 松葉沢山遺跡遠景



No. 2 沼之平遺跡近景



No. 3 一之又遺跡遠景



No. 4 小影遺跡近景



No. 5 荒屋敷遺跡近景



No. 6 週館遺跡遠景

図版1 遺跡現況

遺跡の位置と現況



第3図 遺跡位置図



No. 7 新道堀り遺跡近景



No. 8 岩館遺跡遠景



No. 9 うまかくし遺跡近景



No. 10 久保遺跡遠景



No. 11 烏島館遺跡近景



No. 12 中ノ鶴遺跡近景

遺跡の位置と現況



第4図 遺跡位置図



No. 13 五郎兵屋敷遺跡近景



No. 14 節遺跡遠景



No. 15 金地ヶ原遺跡近景



No. 16 穂長人遺跡近景



No. 17 御林遺跡近景



No. 18 蔵高遺跡遠景

図版3 遺跡現況

遺跡の位置と現況



遺跡の位置と現況



No. 19 神明林遺跡近景



No. 20 桜沢遺跡近景



No. 21 座須賀遺跡遠景



No. 22 西ノ原遺跡近景



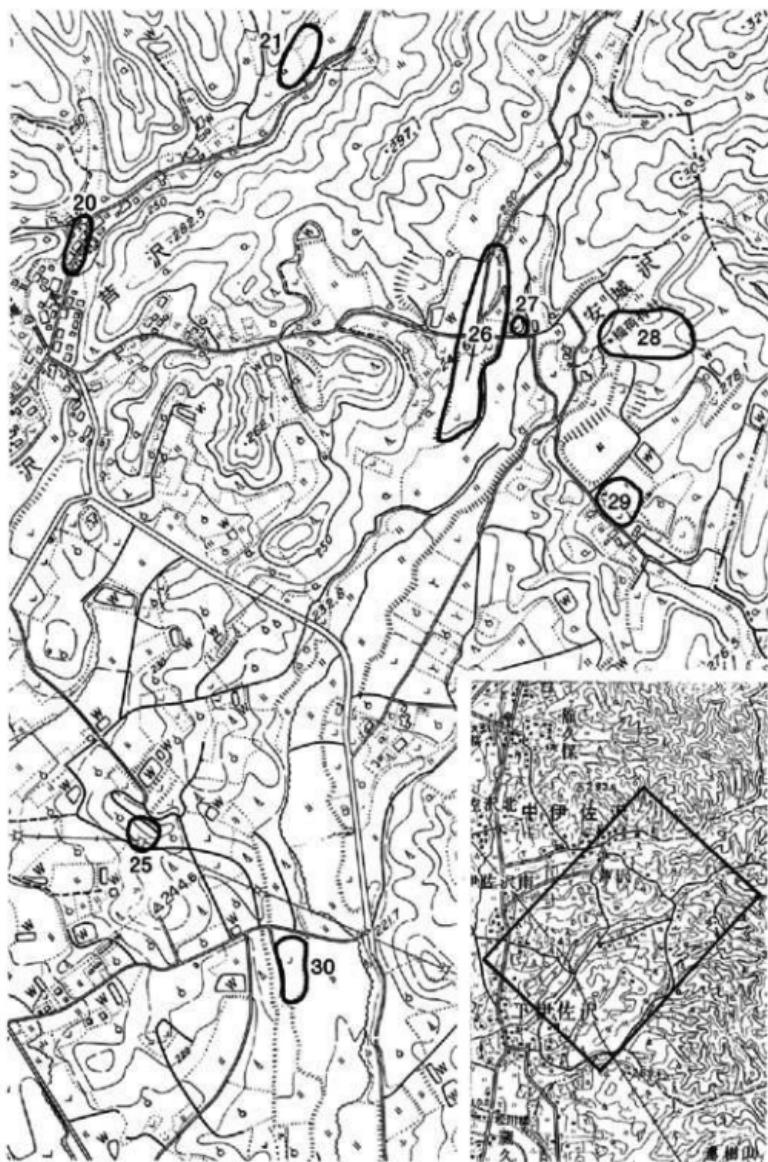
No. 23 荷波原A遺跡近景



No. 24 荷波原B遺跡遠景

図版4 遺 跡 現 況

遺跡の位置と現況



第6図 遺跡位置図



No. 25 向山遺跡遠景



No. 26 長面遺跡遠景



No. 27 綱代沢遺跡近景



No. 28 裏山遺跡近景

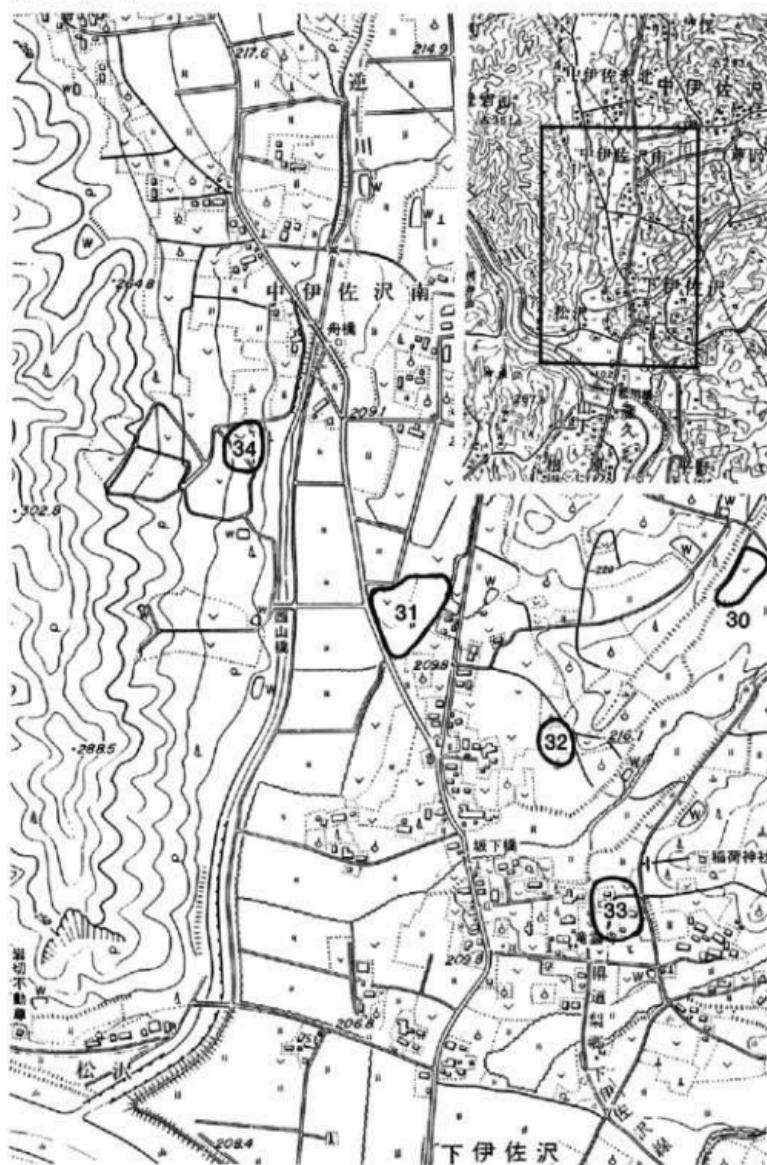


No. 29 安城沢遺跡近景



No. 30 小伊佐沢遺跡近景

遺跡の位置と現況



第7図 遺跡位置図



No. 31 菩澤遺跡近景



No. 32 水上遺跡遠景



No. 33 稲荷前遺跡近景



No. 34 天神平遺跡近景

V 城館遺跡について

今年度の調査で確認された館跡は7箇所である。平坦地に築かれた施設、山頂を中心に築かれた施設など、規模や立地条件に違いは見られるものの、館跡やそれらに伴う施設としてとらえた。また、一部地域でかんたんな測量調査を実施し縄張図の作成にあつた。以下、概略を述べてみる。

No. 2 沼之平遺跡（大石地区）

大石沼にのびる遊歩道の東側に位置する。西南に向かって傾斜する斜面に幅2メートル、長さ50メートルにわたり溝が築かれている。近辺には遺構は見られないが、館跡の施設の一部と考えられる。

No. 6 週館（大石地区）

上大石から上地区にむかう旧道沿いに位置する。逆川右岸にあり遺構は東・西・南に弓矢型にのびる尾根上に築かれている。南西部は自然の急斜面と沢を利用して、北と東斜面は約150メートルにわたり山を巡るように2~3重の空濠を築き堅固なつくりをしている。また、西に延びる尾根は旧道沿いに延びており平場が三段にわたり築かれ道形が残っていることから、館に関わる出入口が築かれていた可能性がある。東と南の尾根の先端部には尾根を垂直に断ち切るような溝が複数築かれている。規模の大きいものは高低差が4メートルに及ぶものも見られる。

No. 8 岩館（大石地区）

週館の南東約1キロメートルの山中に位置する。逆川に向かって張り出した尾根は「T」字形を呈し、東側は河川にむかひ急斜面を形成する。尾根には大小さまざまな空濠が尾根を切るように、しかも平場と交互に築かれており、段差は低い箇所では0.5メートル高い箇所では4メートルを計る。また、尾根西端部には高さ約4メートルにおよぶ壇状の施設が築かれている（第8図）。

No. 9 うまかくし（上伊佐沢）

岩館から南へ約400メートル、見明山から南に張り出した尾根上に位置する。尾根のつけ根の東斜面には幅5メートル・長さ20メートルの平場が築かれ、谷側には土塁が見られ

る。このため以前から「うまかくし」という名称でよばれてきた。

No.11 桑島館（上伊佐沢）

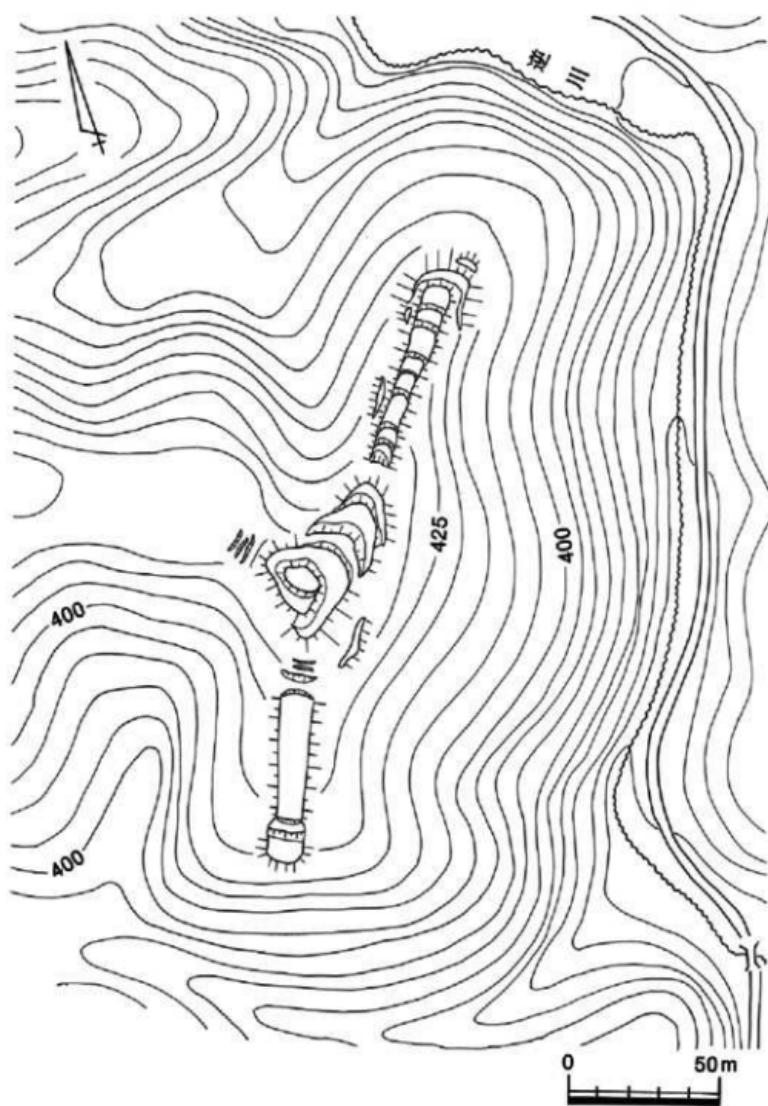
逆川左岸の河岸段丘上に位置する。「伊佐沢の五館」のひとつで、「館」という字名にも見られるように古くから堀や土塁の残る土地として知られている。大小河川で形成された段丘の地形を活用し、東西100メートル南北80メートルの規模をもつ館である。北と西は比高差が2～3メートルの河岸段丘で、南西隅には幅約10メートル、深さ約2メートルの堀が残っている。以前は西側にも大規模な堀が巡っていたが、現在は幅2～5メートル長さ20メートルの堀が残っている。館主は伊達の家臣桑島将監と伝えられており、館主にかかる言い伝えが数多く残っている（第9図）。

No.17 御林（芦沢地区）

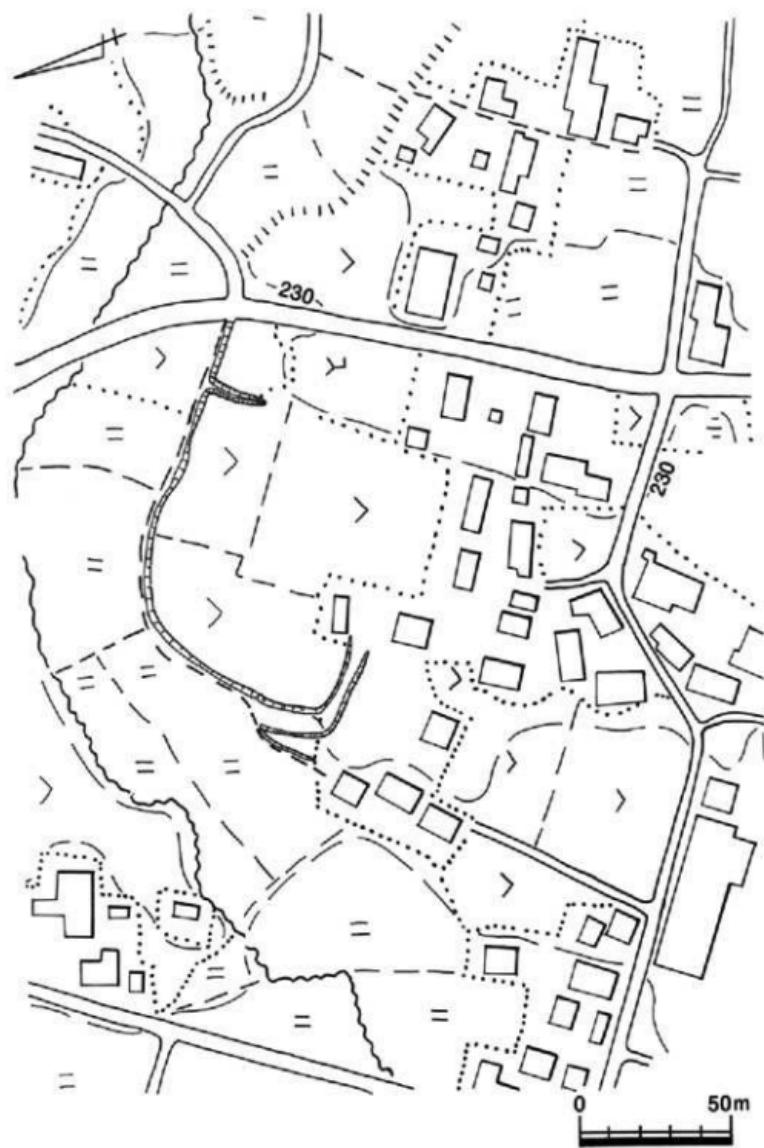
玉林寺の東約1.1キロメートルの尾根上に位置する。山頂部は起伏が見られるものの比較的平坦な地形である。尾根東側は山頂を囲むように三重の空濠が巡っており、幅6メートル、比高差4メートルにおよぶ箇所もある。西と北に伸びる尾根には大小さまざまな溝が尾根を断ち切るような形で築かれており、規模の大きなものでは長さ33メートル幅9メートルにおよぶ溝が見られる。

No.28 帽山（芦沢）

安城沢の福荷神社に向かって西北に張り出した尾根上に位置する。神社裏の鳥居付近には尾根に沿って空濠が築かれている。また、中腹には40×30メートルの範囲に二重の空濠が巡らされ中央部には方形の壇が築かれている。壇と空濠は整然と区画された構築で、中央に社が奉られている。



第8図 岩館縄張図



第9図 桑島館縄張図

VI 遺物について

このたびの調査で収集した遺物は量の多少にかかわらずほとんどが表面採集であり、遺跡密度の濃さが窺われる。また、採集遺物が縄文時代に関わる遺物であることも特筆すべき事項であろう。時代別にそれぞれの遺跡ごとに記述してみることとする。

【縄文時代】

No. 1 松葉山遺跡　頁岩製剝片と碎片である。打痕の痕跡から縄文の古い時期の所産と考えられる。

No. 2 沼之平遺跡　搔器・剝片・碎片でいずれも頁岩を素材としている。搔器は三角形状の剝片の一端に主要剝離面側から加工を施し刃部を作出している。

No. 3 一之又遺跡　定まった形態をもたない石皿であるが、片面が摩滅し磨った痕跡を残している。

No. 4 小影遺跡　多数の剝片類に混じって石錐や搔器が見られる。石錐はやや厚みを帯び器全体に粗い剝離痕をとどめる。搔器は棒状の器形の一端に分厚い刃部が形成される。いずれも頁岩を素材としている。

No. 5 荒屋敷遺跡　頁岩製剝片と石錐である。石錐は二等辺三角形を呈し両面に細かい剝離が施されている。

No. 7 新道堀り遺跡　縄文土器片と剝片を採集した。土器片は隆帯を持つもの、斜縄文が施されるものがあり、縄文中期から後期の土器片と思われる。

No. 10 久保遺跡　頁岩や玉隨質の碎片を採集した。同地点から岩版が採集されている。偏平な礫に2~4状の沈線で幾何学文が刻まれ、器中央部には玉抱文が見られ縄文後期の所産と考えられる。

No. 11 桑島館遺跡　頁岩製の剝片と碎片である。

No. 12 中ノ嶋遺跡　頁岩製の剝片である。

No. 13 五郎兵エ屋敷遺跡　頁岩製の剝片と碎片を採集した。これまでの採集品には剝片や碎片のほかに縄文土器片や磨製石斧、完形の石皿も出土している。

No. 14 館遺跡　剝片の側面に二次加工をもつ剝片で頁岩を素材としている。

No. 15 金池ヶ原遺跡　頁岩製の碎片である。

No. 18 藏高遺跡　頁岩素材の剝片である。

No. 19 神明林遺跡　剝片や碎片で頁岩を素材としているが、黒曜石の剝片もみられる。

No.20桜沢遺跡 縄文土器片や石窓・石皿・凹石・磨石がある。

No.21座須脇遺跡 縄文土器と剝片採集された。土器は体部に梯歯状の曲線が施されるものと、斜縄文を地文とし沈線で曲線を描く文様が施される。石器は石窓・剝片で頁岩製である。土器の文様から縄文時代中期の所産と考えられる。

No.22西の原遺跡 主要剝離面を残し反対面は両側片から器中央にかけて剝離が施される石匙である。

No.23荷波原A遺跡 頁岩の剝片・磨石・石皿が採集された。時期は縄文時代である。

No.24荷波原B遺跡 先端部と両側片に剝離を施した削器である。

No.26長面遺跡 土器片は摩滅が著しく詳細は不明である。石器は石匙や削器・剝片等で頁岩を素材としている。

No.30小伊佐沢遺跡 頁岩製の剝片である。

No.31芥沢遺跡 頁岩製の剝片である。

No.32水上遺跡 頁岩製と玉隨質の剝片である。

No.33福井前遺跡 頁岩製の剝片である。

【奈良・平安時代】

No.6牠長入遺跡 須恵器片で口縁や体部の破片がみられ、瓶や壺の比較的大型の破片が多く、平安期の所産である。

No.25向山遺跡 梗や皿の破片であるが非常に薄手のつくりである。

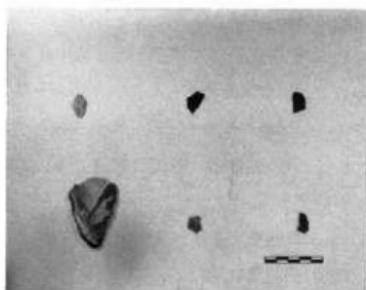
No.29安城沢遺跡 皿・瓶・壺等の破片である。体部片に叩目文、底部には糸切痕が見られる。

No.34天神平遺跡 皿や瓶類の破片である。皿の底には糸切痕が瓶類の体部には叩目文が見られる。

遺物について



No. 1 松葉沢山遺跡



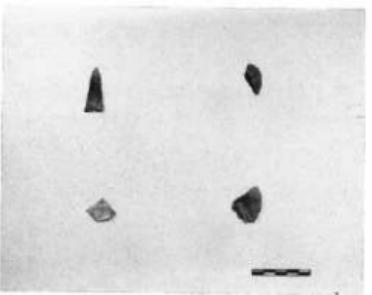
No. 2 沼之平遺跡



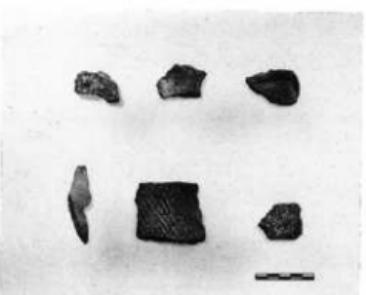
No. 3 一ノ又遺跡



No. 4 小影遺跡

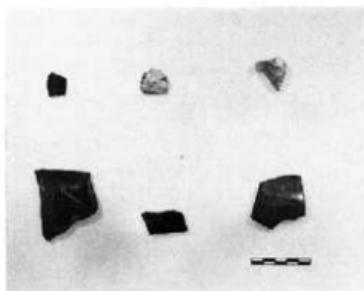


No. 5 荒屋敷遺跡



No. 6 新道拂り遺跡

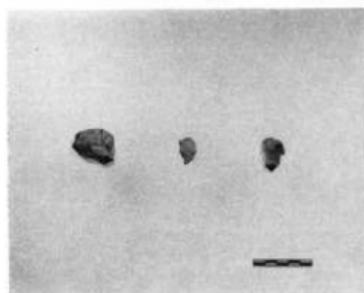
図版7 分布調査遺物



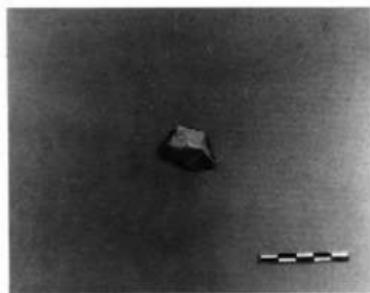
No. 10 久保遺跡



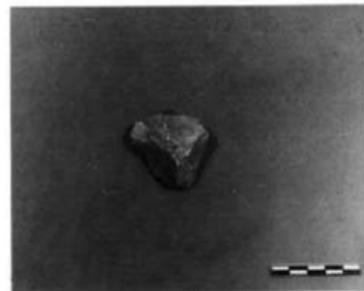
No. 10 久保遺跡



No. 11 桑島館遺跡



No. 12 中ノ船遺跡



No. 13 五郎兵工屋敷遺跡



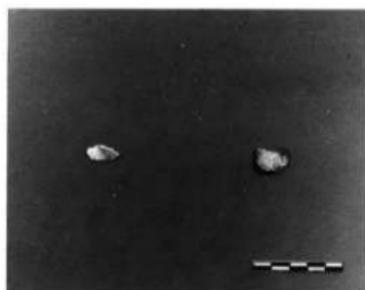
No. 13 五郎兵工屋敷遺跡

図版8 分布調査遺物

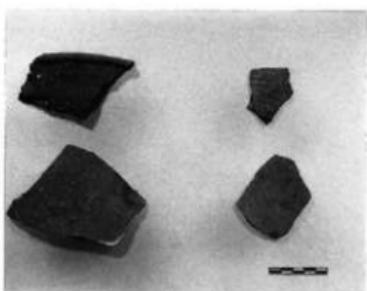
遺物について



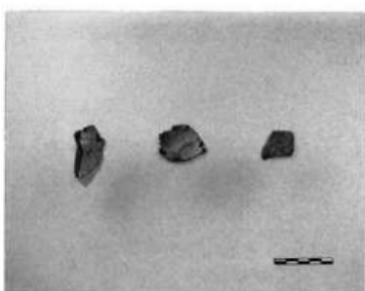
No. 14 館 遺 跡



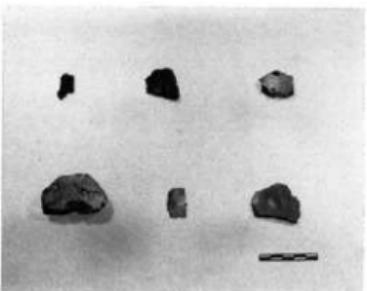
No. 15 金地ヶ原遺跡



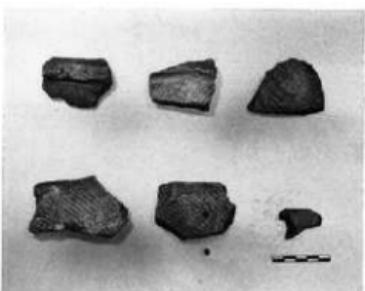
No. 16 穂長入遺跡



No. 18 蔵高遺跡



No. 19 神明林遺跡

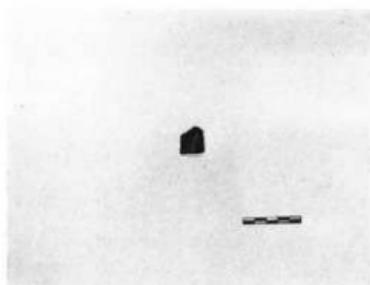


No. 21 座須脇遺跡

図版9 分布調査遺物



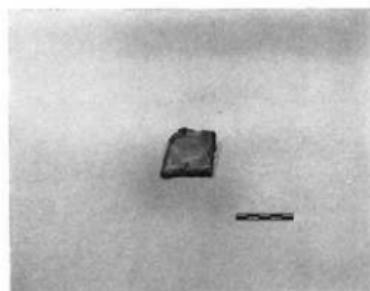
No. 20 桂沢遺跡



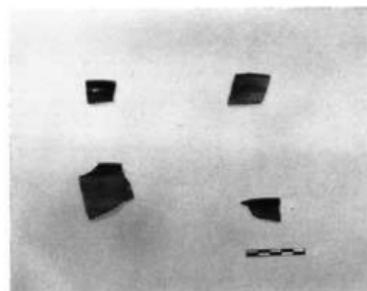
No. 22 西ノ原遺跡



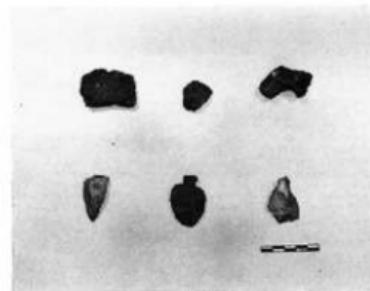
No. 23 荷波原A遺跡



No. 24 荷波原B遺跡



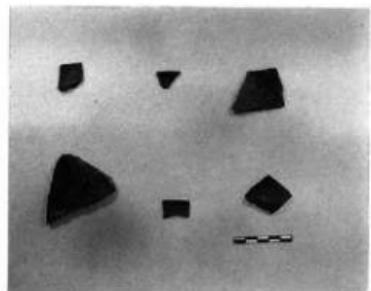
No. 25 向山遺跡



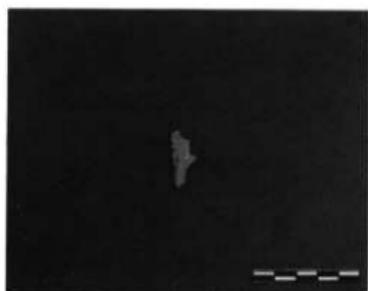
No. 26 長面遺跡

図版10 分布調査遺物

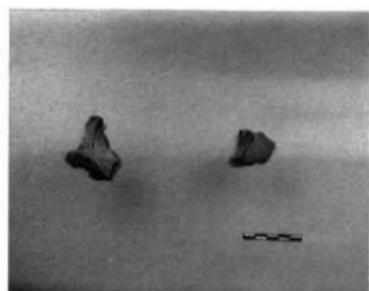
遺物について



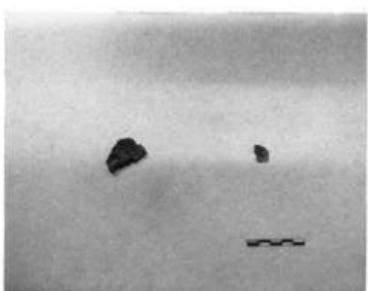
No. 29 安城沢遺跡



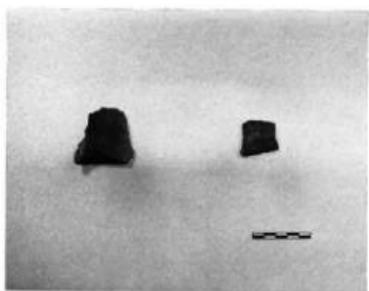
No. 30 小伊佐沢遺跡



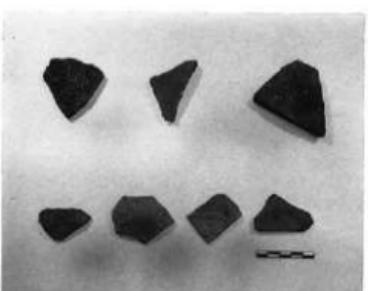
No. 31 萩沢遺跡



No. 32 水上遺跡



No. 33 稲荷前遺跡



No. 34 天神平遺跡

図版11 分布調査遺物

VII まとめ

1. 遺跡の概要

伊佐沢地区の遺跡は、これまで昭和53年度山形県遺跡地図によると岩穴・塙の越・元八幡・太田・上の台・蜂屋敷の6遺跡が登載されていたが、この度の調査で34箇所の遺跡があらたに見つかった。遺跡の年代をみると縄文時代が過半数を占め、中世・奈良・平安、近世の遺跡となる。また、遺跡の立地をみるとほとんどが河岸段丘上に位置している。調査区の概要でも述べたが、逆川を中心に小河川が著しく発達しているため地区内のいたるところに河岸段丘がみられ、先人がこぞって生活の場として求めたことであろう。

つぎに遺物の散布状況について触れてみると、縄文時代の遺跡が過半数を占めているが採集した遺物の量はけっして多いものではない。聞き取り調査で得た情報や個人所有の土器や石器からすると1箇所の遺跡からは相当の遺物が採集されることになるが、調査で得た遺物の量は遺跡によりばらつきが見られる。すなわち逆川上流では多量の遺物が採集されるが、下流に行くにつれて遺物の量が減少するのである。当初は遺跡の性格からくる相違点としてとらえていたが、調査も終了に近づいたころ偶然ゴミ処理用の堅穴にさしかかり断面をみたところ、表土層（黒ボク）が60~90センチメートルにわたり堆積しているのが観察された。このことは、逆川の上流や山のふもとでは表土層が比較的浅いため開墾や耕作時に地中に埋もれていた遺物が地表に現れ、中・下流では表土層の堆積が厚いため遺物が地中に埋もれたままの状態であると考えられる。聞き取り調査の出土状況を総合すると大規模な土木工事や耕作が地中深くおよんだ時に遺物を採集していることでも、遺物包含層が深い位置にあることが推定される。このことから、伊佐沢地区の埋蔵文化財の保存状態はきわめて良好と言うことができる。

2. 城館遺跡について

この度の調査で7箇所の城館遺跡が確認されたが、遺跡の立地条件から大きく二つの種類に分けることができる。ひとつは山頂を中心に尾根沿いに施設を構築した「山城」と、平地に築いた「平城」である。

山城にあたるのが沼之平、廻館、岩館、うまかくし、御林、裏山である。なかでも廻館と御林は規模が大きく長軸が200メートルを越え、山頂を中心平坦地が設けられ、さらにそれらを巡るように二重から三重の空濠が構築されている。岩館・裏山は立地や構築された遺構の種類は同様であるが、規模や配置が異なってくる。特に裏山の遺構は区画性をもつていてことから二次的に再利用された可能性が考えられる。沼之平・うまかくしは遺構の規模が小さく単発的であることから、組織だった施設のなかでの独立した機能を持つ

施設と考えられる。

平城にあたるのが桑島館である。河岩段丘の地形を利用した規模の大きい館跡である。館主は桑島将監と伝えられ、上伊佐沢の玉林寺を開いたのをはじめとして、現在国の天然記念物に指定になっている「伊佐沢の久保ザクラ」を植えるなど、多くの言い伝えが残っている。

以上のように伊佐沢地区には限られた面積のなかに、館跡に関する遺跡が密集して発見された。なかでもこれまで伝わってきた平坦地に築かれた館の他に、山頂を中心に山の尾根沿いに築かれたいわゆる「山城」が集中して見られることは特筆すべきことである。山城の機能については安易な推測は避けることとして、位置や規模それに平地の館との関わりを把握しながら進めなければならない。また、歴史的背景もふまえながら中世の伊佐沢地区の究明に励めなければならない。

3. 遺物について

28箇所の遺跡で遺物を採集したり提供いただいたが、土器や石器から縄文時代の遺物と奈良・平安時代のものに分けることができる。

【縄文時代】

石器片が主体であり、遺跡の時期や性格は今後の詳細な調査に委ねることとし、若干の遺物についてふれてみる。

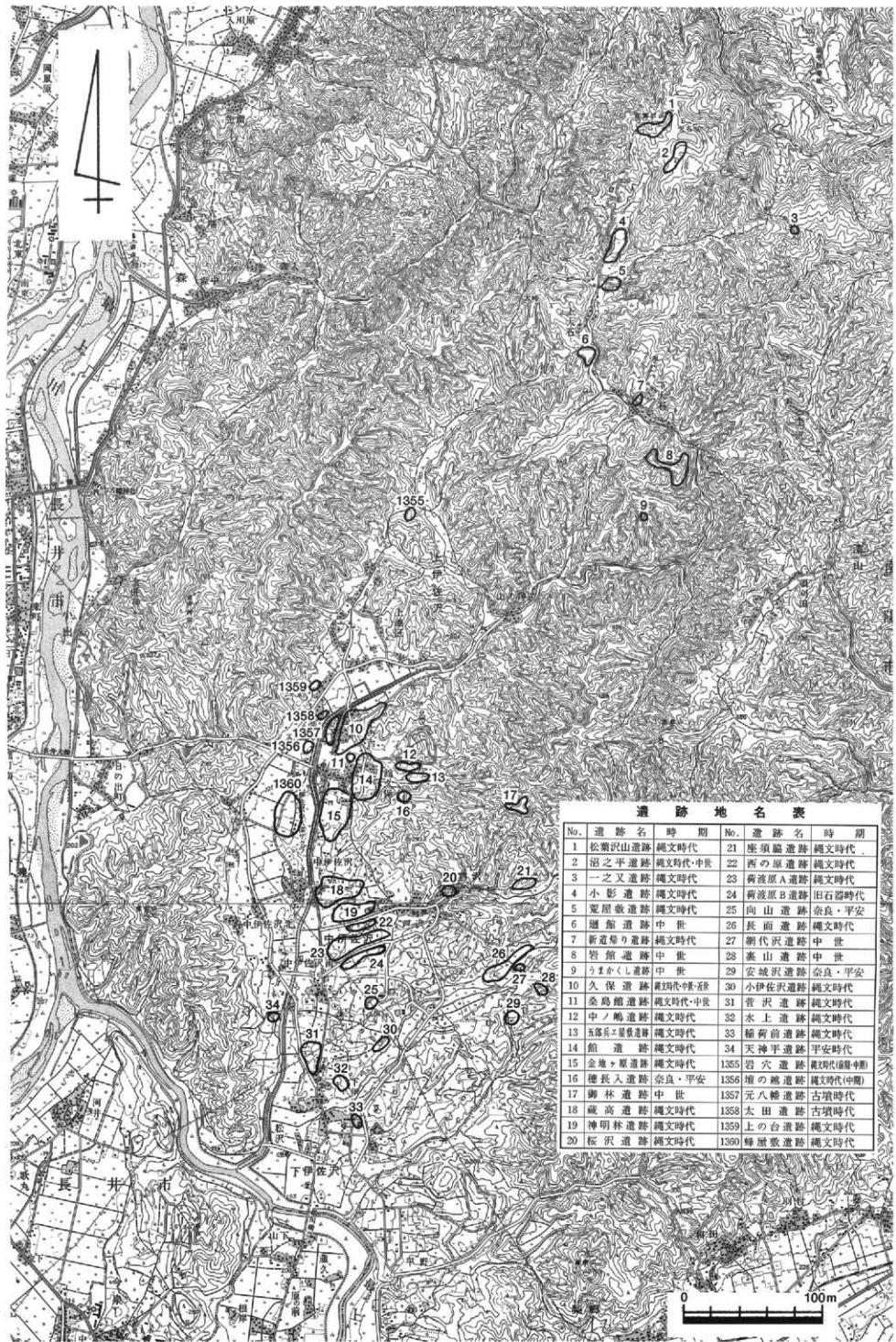
No.10久保遺跡出土の岩版は完形品にちかく、遺存状況も良い。所有者の方の話しからすると、根菜類を収穫するさい地表下約1メートルの地中から出土したという。岩版は縄文人が呪術や護符のような精神文化に用いたと考えられること、遺物包含層が深いこと等から付近一帯には大規模なムラが営まれていたと推測され、遺跡の遺存も良好と思われる。岩版は曲線文の特徴から縄文時代後期の所産である。

【奈良・平安時代】

No.16狹長入遺跡からは須恵器の提供をいただいた。須恵器片は小高い丘陵地帯の斜面から採集されており、現地を確認したところ道路造成により一部削平されているが、斜面は残っていた。遺物の採集が斜面に限られることから、本遺跡は窯跡の可能性がある。

No.34天神平遺跡も山の裾野の緩やかな斜面に須恵器片の散布が見られたが、現在はたばこが作付され「たばこ園地」と名打って大規模な造成が行われ遺跡は破壊を受けていた。本遺跡も地形から推測すると、窯跡と考えられる。

以上、縄文時代と奈良・平安時代の遺物を中心に説明を行ったが、それらの遺物といっしょに摺鉢や薄手の近世陶器も採集されており、伊佐沢地区一帯も遺跡の密集地帯と考えられる。



第1図 分布調査遺跡地図

分布調査報告書

昭和63年3月23日 印刷

昭和63年3月24日 発行

発行 留井市教育委員会

山形県新庄市留井町上久保1-1

TEL 0238-734121

印刷 印刷の芳文社